



# かなでだより

第14号  
12月5日発行  
12月号

寒さも厳しくなり今年も残り、ひと月となりました。みなさま体に気をつけて、良い年をお過ごし下さい。さて今月号からは、失敗を恐れず挑戦する力・失敗にくじけない力の「失敗力」についてご紹介いたします。

【こどもまなびラボより引用】

あなたのお子さまは、失敗を怖がっていませんか？

失敗を過度に恐れるあまり「マニュアル依存」や「指示待ち傾向」が強まっていることに危機感を抱いているのは、心理学者の榎本博明氏です。榎本氏が調査したところによると、失敗を恐れる理由として、先生の指示に従って動けば間違いないし、勝手に動いて叱られるのは嫌なので、自分たちは失敗しないように先生のサポートに頼るようになったのではないかと。言われた通りにやっていたらうまくいくのなら、あえて自分からチャレンジする必要もないし、というものでした。

では、いつから失敗を恐れるようになってしまったのでしょうか。主な原因について二つ挙げています。

## 【原因1】

大人の過剰なサポートが  
子どもから失敗経験を奪っている。

思考錯誤する時間を与えず、  
大人が先回りして指示や  
アドバイスをしてしまうため、  
子どもは失敗経験を積むことができない。



## 【原因2】

「失敗による挫折感を与えない教育法」が  
推奨されている。

子どもたちが失敗して傷つくことを防ぐために、  
学校や塾では懇切丁寧な指導が行なわれている。  
また、子どもがポジティブな気分になるような言葉かけが多い。



つまり、親だけでなく学校や塾の先生など周りの大人が、子どもが失敗しないようにと“過保護な環境”をつくり出しているというのです。その結果、「失敗経験が乏しく、失敗に対する免疫がないため、いざ失敗すると立ち直れないほどの痛手を負う」という状況になってしまいます。

そのままでは「失敗を恐れていたら前に進むことができない大人」になってしまいかねます。

子どものうちから「失敗力」を育てる方法について、いくつかある中から今回は1つご紹介いたします。

## ◎「悪い先回り」ではなく「良い先回り」を◎

「悪い先回り」とは、大人が常に手出し口出しをすること。親がなんでもかんでも手伝ってしまうと、子どもから「失敗経験」や「学びのチャンス」を奪ってしまうことに。また、子どもには子どもなりのプライドがあります。そのプライドによって、子どもは親に反発し、やろうとしていたことを途中で投げ出してしまうかもしれません。周りの大人は「良い先回り」をしていくことが必要です。「良い先回り」とは、「成功率を上げるお膳立て」のこと。例えば、料理をお皿に盛りつける手伝いの場合、使いづらい長い箸ではなく、子どもでも扱いやすいトングを用意するといったことです。

他にも、子どもが洗い物をするときは、割れにくいプラスチックの食器を用意する、床が濡れてもいいようにビニールシートを敷いたりなども、「良い先回り」なのだそう。

少し面倒に感じるかもしれませんが、子どもの成長のために「良い先回り」をしたいものですね。



かなででも、お子さまが自分で考えて行動することができるような言葉掛けをしていけるよう心がけています。

来月号でも「失敗力」を育てる方法についてご紹介いたします。

何かご不明な点や心配なことがございましたら、ご相談ください。

<放課後等ティサービスかなで> TEL : 011-596-9915 HP : <https://www.lyfid.co.jp>